

三木市の祭り



がやいん
伽耶院



みさか
御坂サイフォン

市指定無形民俗文化財

れんげじ おにおど 蓮花寺 鬼踊り



(残しておきたい“ふるさと北播磨”写真コンテスト入賞作品)

やく ねんまえ ほし つた めいじ じだい ほし
約800年前に始まったと伝えられ、明治時代の初めごろに一時中断しました。その後、復活と中断を繰り返して昭和41年からは毎年2月の第1日曜日に継続して行われています。

へいわ ほうさく ねが おおおに こおに にん こうご
平和と豊作を願い、大鬼と子鬼それぞれ4人が交互に12種類の踊りを奉納します。大鬼が松明を振りかざして踊る迫力のある踊りが特徴です。

いつ：2月 第1日曜日
どこで：三木市口吉川町蓮華寺187



よかわわかみやじんじゃ しんじ
吉川若宮神社のヤホー神事



しんじ むろまち じだい はじ い
ヤホー神事は室町時代から始まったと言われており、
ししまい せんとう ぎょうれつ つく かぐらうた うた けいだい
獅子舞を先頭に行列を作り神楽歌を歌いながら境内を
すす
進んでいきます。

かぐらうた ごえ
「ヤホー」は神楽歌の「イヤアホー」というかけ声からつ
い
けられたと言われてしています。

てんぐ たふく みこし おたびしょ
また、天狗とお多福につれられて、神輿が御旅所まで
ね ある
練り歩きます。

むかし しゅうかん こんにち つた きちょう ぶんかざい ひょうご
昔からの習慣を今日まで伝える貴重な文化財で、兵庫
けん じゅうようむけいみんぞくぶんかざい してい
県の重要無形民俗文化財に指定されています。

いつ：10月 第1日曜日
どこで：三木市吉川町稲田557



おおみややはちまんぐう れいたいさい みやいり みやで やたい ね
大宮八幡宮 例大祭 宮入宮出の屋台練り



み き し ない さいだい あきまつ だん いしだん だい や
三木市内最大の秋祭りです。85段の石段を8台の屋
たい あかしまち しんまち すえひろ しもまち さかえまち たかぎ ひらた おおむら
台(明石町、新町、末広、下町、栄町、高木、平田、大村)
かつ のぼ ゆうそう みやいり みやで うらやす まい おこな
を担いで登る勇壮な宮入宮出があり、浦安の舞も行われ
ます。

ばんしゅうさんだいまつ い やたい かつ いしだん のほ お
播州三大祭りとも言われ、屋台を担ぎ、石段を上り下り
おおみややはちまんぐう れいたいさい みやいり みやで やたい ね ばん
する「大宮八幡宮例大祭宮入宮出の屋台練り※1」は播
しゅうちほう み どくとく ね み き し むけいみんぞく
州地方でも見られない独特な練りで三木市の無形民俗
ぶんかざい してい
文化財に指定されています。

ね やたい うご ようす
※1 練り屋台を動かす様子

いつ：10月 第2土・日曜日
どこで：三木市本町2丁目19-1



がやいん さいとう だいごま
伽耶院 採燈大護摩



各地から天台宗系山伏200名が集まり、ヒノキの葉を積み上げお経を読みながら点火されます。不動明王の火で人の煩惱※1を焼き尽くそうとする儀式で、近畿地方では最大の規模を誇ります。弓・剣・斧の作法なども行われます。なお入山料は「草ひき十本」となっています。

8月23日・24日には伽耶院万灯会も開催され阪神・淡路大震災の霊を慰める6000本のローソク点灯と500余りの手書き灯籠にローソクが灯されます。

※1 煩惱:人が生きる時に感じる苦しみの原因になるもの

いつ：10月 第2月曜日
どこで：三木市志染町大谷410



かなものじんじゃ ふいご
金物神社 鞆まつり



「鞆」とは、風を送る機械で、昔は金物を鍛える工程のなかで必要不可欠であったものです。

鞆まつりは三木金物協同組合や全三木金物卸商組合が主体の三木金物神社奉賛会により開催され、金物産業の繁栄を願う神事のあと、金物神社の境内にある古式鍛錬場で「火入式」と、古式鍛錬※1が行われます。

「三木金物まつり」の際に、市民から寄せられた古い刃物の供養も行っています。

※1 古式鍛錬:伝統的な技術で金属を打ちきたえ、強い刃物を作ること

いつ：12月 第1日曜日
どこで：三木市上の丸町5-43
三木市立金物資料館横

